

**福島県男女共生センター主催人材育成関連講座
受講生の追跡調査
報告書**

平成29年3月

福島県男女共生センター

目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査方法	1
4	調査期間	1
5	回収状況	1
6	回答者属性	2
II	調査結果	
1	ボランティア活動等について	3
2	活動のきっかけとセンター主催講座の関連	4
3	活動する仲間及び連携する団体	5
4	過去のボランティア活動等	6
5	ボランティア活動をする上で必要だと思うこと	7
6	当センターの講座受講後の変化や影響	8
7	受講後に必要だと感じた支援	10
8	今後取り組んでみたいこと	11
9	センターへの要望や意見等	12
10	まとめ	15
III	参考資料	
	調査票	16

I 調査の概要

1 調査目的

センター主催の人材育成関連講座である未来塾の受講修了生に対して、受講後の活動（生活や仕事も含む）においてどのような変化がみられたのか等について追跡調査を行い、センター人材育成関連講座の成果と課題を把握し、今後の事業の参考とすることを目的とした。

2 調査対象

平成 22、24、25 年度の未来塾、平成 26～28 年度の未来館エンパワーメント塾の受講生

3 調査方法

郵送法

4 調査期間

平成 28 年 12 月 21 日～平成 29 年 1 月 25 日

5 回収状況

発 送： 104 件（返 送： 10 件）

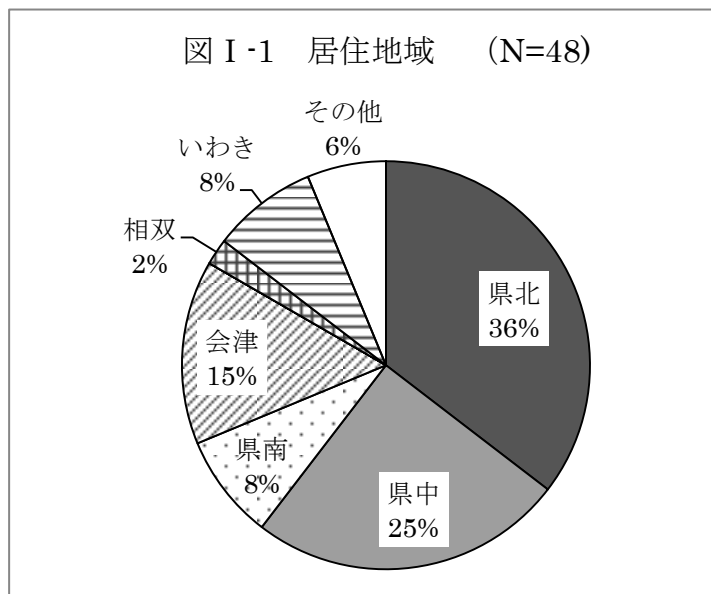
回 収： 48 件

回収率： 51.1%

6 回答者属性

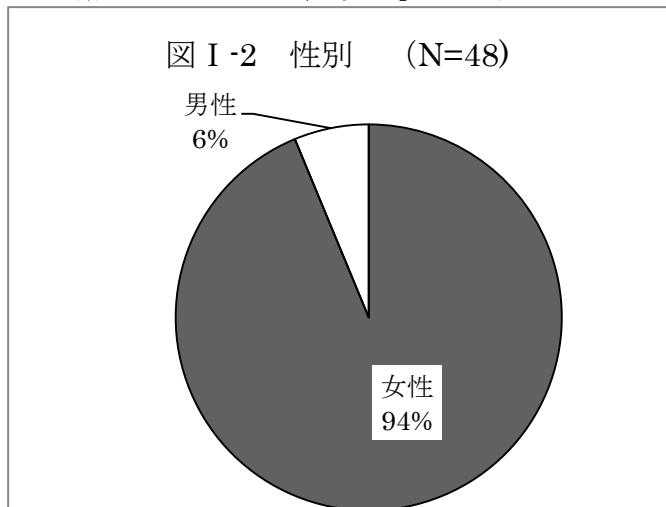
(1)居住地域

「県北」が 36%、次いで「県中」が 25%、「会津」が 15%となっている。



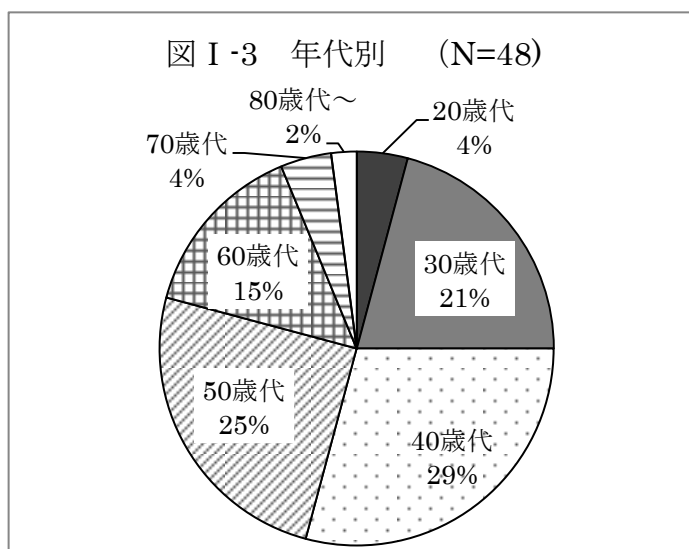
(2)性別

主に女性を対象とした講座であったため、「女性」が94%となっている。



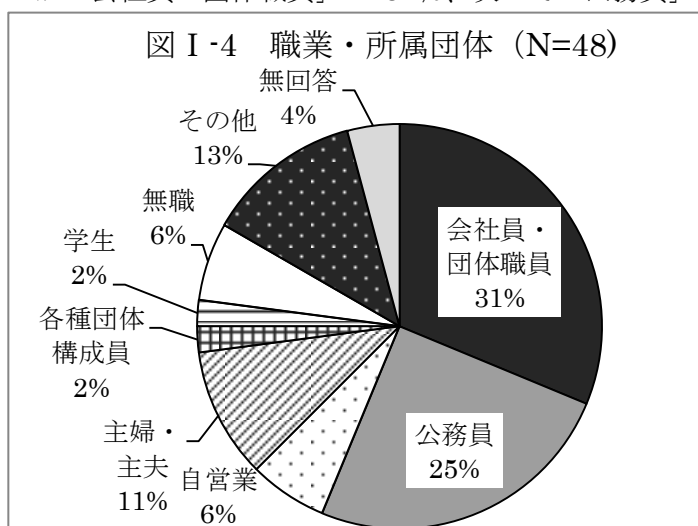
(3)年代

「40歳代」が29%、「50歳代」が25%、「30歳代」が21%となっている。



④職業・所属団体

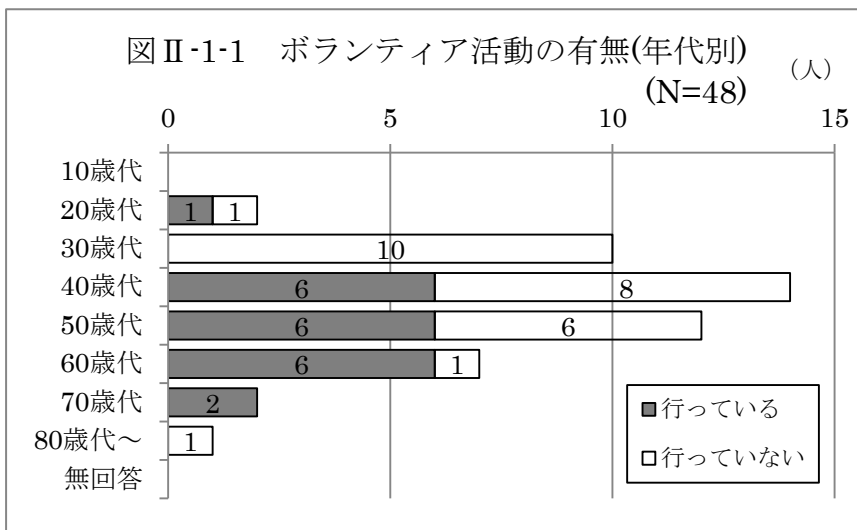
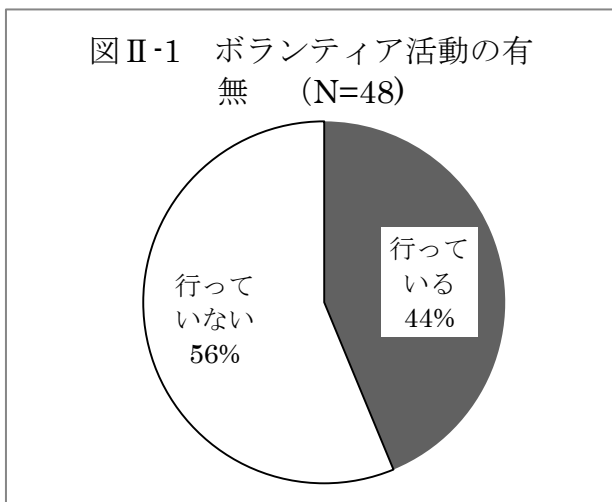
最も割合が高いのが「会社員・団体職員」の31%、次いで「公務員」の25%となっている。



II 調査結果

1 ボランティア活動等について（調査票問 5）

現在、ボランティア活動を行っている方は44%だった（図Ⅱ-1）。年齢別にみると40～60歳代が多く、30歳代は0%だった（図Ⅱ-1-1）。仕事や子育てでボランティア活動をする時間的余裕がないのではないかと推測される。



○具体的な活動内容（調査票付問 5-1）

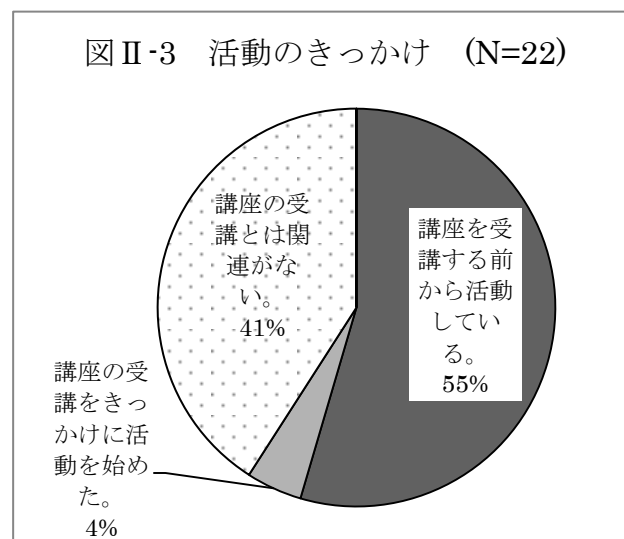
- ・①男女共同参画のリーダー研修をうけての団体での自主活動、②子育て支援団体（レクリエーション活動）のボランティア活動、③小学校（コミュニティースクール）ボランティア活動、④（保育所、幼稚園、小学校、子育て支援センターなど）本の読み聞かせボランティア
- ・男女共同参画
- ・思春期ピアカウンセラーの養成と活動支援、思春期相談（クリニックにて）、中学校・高校での出前性教育
- ・①子育て支援ボランティア、②まちづくりに関するボランティア、③地域包括支援センターでのボランティア、④小学校の交通安全見守り隊、⑤町主催の教室へ参加協力している。
- ・①市高齢者サロンの運営（月1回）、②ホームビジター（家庭訪問型子育て支援）※12月に産前産後サポートビジターの講座を修了し、活動の幅を広げた。③傾聴ボランティア、④市

認知症サポーター（カフェ運営や施設で傾聴活動）、⑤幼・小学校・高齢者向け絵本の読み聞かせと昔がたりのボランティア

- ・子育て支援、ホームスタート、いわき地域の子ども子育て支援ネットワークでのボランティア
- ・地域集会所管理人ボランティア、託児ボランティアコーディネーター
- ・子育て支援団体に所属し、保育ボランティア
- ・町内会で防犯活動
- ・介護予防ボランティア、電話相談ボランティア
- ・歴史案内ボランティア
- ・環境ボランティア
- ・音楽療法士と共に高齢者施設、障がい者へ音楽療法を行っているボランティア
- ・高校（娘が在学）のPTA役員、地区公民館の活動ボランティア
- ・定期的に駅前のごみ拾いを行うボランティアに参加
- ・日本語教室、お口の相談員として健康推進、賛同者で地元のお年寄りに聞き取り（食等）している。
- ・地域の歴史や文化財などの観光地を案内し地域活性を図る活動、様々なスポーツシーンを支えるスポーツボランティア
- ・地域の草刈り
- ・歌の演奏活動を不定期でしている。
- ・個人活動なので、特に目立った団体に所属しているわけではありません。失業そのものが私のボランティア活動です。
- ・学生として研究を行っている。

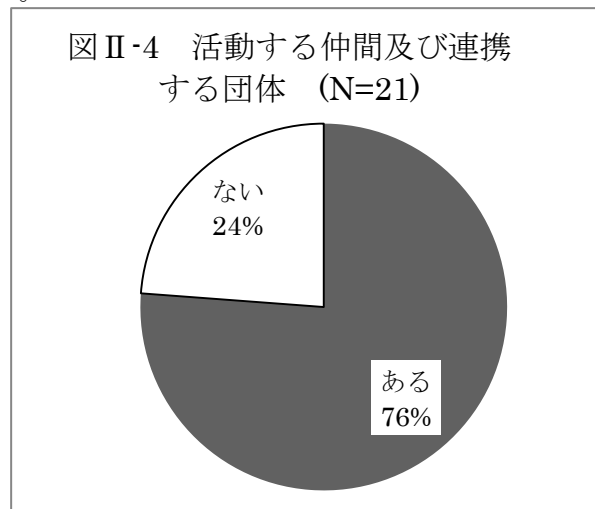
2 活動のきっかけとセンター主催講座の関連（調査票付問 5-2）

問5で現在ボランティア活動等を行っていると回答した方の中で、「講座の受講をきっかけに活動を始めた」が4%と低かった。今回の調査対象者である未来塾や未来館エンパワーメント塾の受講生は受講前から活動していた方が多く、地域や組織で活動している女性がスキルアップの目的で受講していたのではないかと考えられる。



3 活動する仲間及び連携する団体（調査票付問 5-3）

共に活動する仲間や連携している団体について尋ねたところ、子育て支援に関する団体に所属している方が多かった。



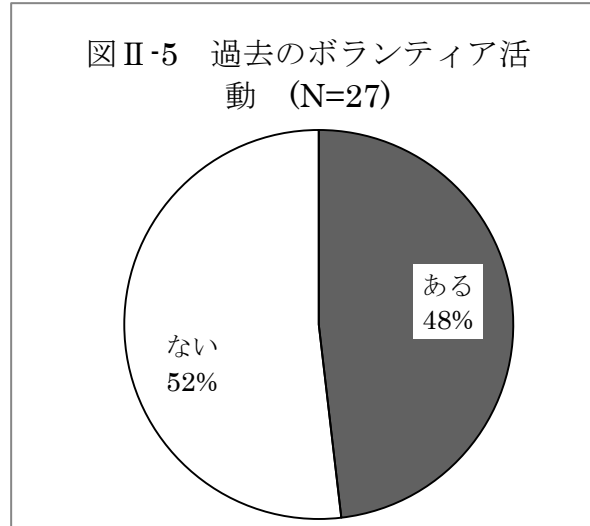
○具体的な内容

- ・所属団体のリーダー研修や自主的研修会に参加（「講演」を聴いたり、仲間との情報交換をしたりなどのつながりがある）
- ・所属している子育て支援団体（他 3 件）
- ・地域のいくつかの子育て支援団体に所属しており、地元社会福祉協議会と連携している。また、町づくりに関する会にも所属している。
- ・地域の郷土史研究会や NPO 法人など
- ・環境問題に関する会に所属している。
- ・民団体として組織化されている。
- ・同地域の仲間、県北の仲間
- ・市役所・県
- ・郡山市主催の講師（特に公民館主催高齢者学級）
- ・町内会のメンバー

4 過去のボランティア活動等（調査票付問 5-4）

過去にボランティア活動を行ったことが、「ある」と回答した方に具体的な活動内容について尋ねたところ、地域での自治会活動や施設でのボランティア活動があげられていた。

辞めた理由については、就職や結婚出産等の環境の変化や、体力的に余裕がないなど理由があげられていた。



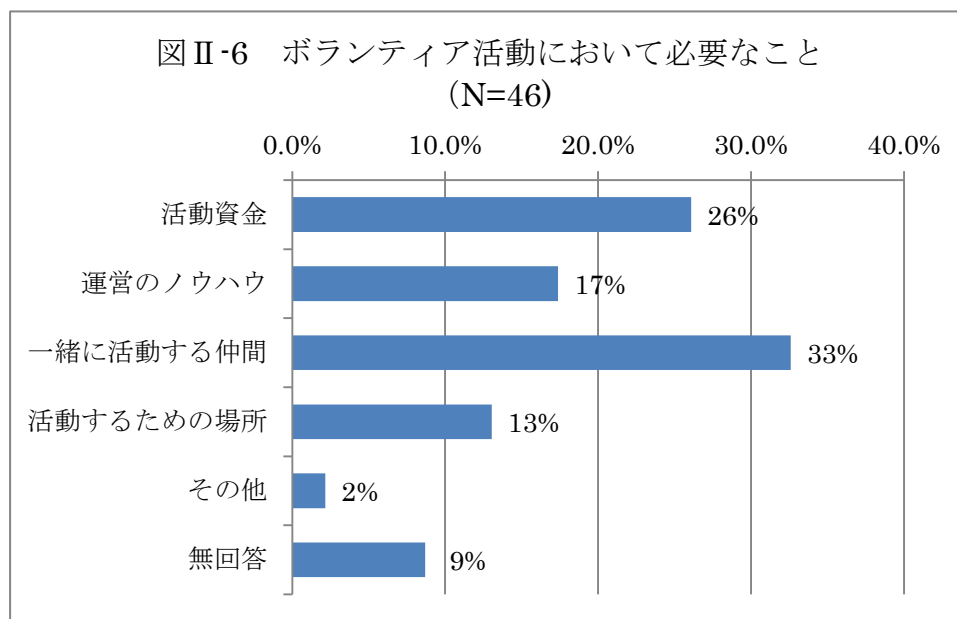
○具体的な活動（調査票付問 5-5）

活動内容	辞めた理由
1 旧市町村の地域復興協議会の会員 2 青年会議所 3 市民活動（図書館ボランティア、リサイクルなど） 4 市民活動（脱原発、反戦、市民オンブズマンなど）	1 と 3 は自分と家族の身体と家計が苦しくなり、継続的な活動ができなくなった。 2 定年 4 震災により、社会情勢が一変し、活動する目的を失った。
子どもたちの環境教育活動	県外への引越のため
知人のイベントの手伝い	日程が限られていたのでその日限り
1 勤労青少年ホームでのボランティア活動 2 職場（スポンサー）のバザー、ボランティア活動（地域のお祭り） 3 町内会（管理会）	1 年齢上限の為、仕事で時間が取れない為 2 退職したため 3 担当順番が交代となったため
小学校の本の読み聞かせ活動	年度ごとの活動だったので区切りで。
知的障がい者の外出のお手伝い	ボランティア活動に参加する余裕がなくなったので。
・仮設住宅でお茶会 ・障害者センターでクリスマス会のボランティア	特になし
学生時代に障がい児の施設でイベントのお手伝いをさせていただいた。	社会人になり、妻になり、母になり・・・自身に時間的にも精神的にも余裕がなくなった為。

活動内容	辞めた理由
地域活性のための活動	結婚と出産
市の健康推進員	膝が悪くなったから
・コンサート運営のお手伝い ・授産施設のレクリエーション活動（キャンプなど）のお手伝い	仕事が忙しくなり、子どもが産まれて時間的、肉体的な余裕がなくなったから
学校（小、中学校）図書館、保健センターなどでの読み聞かせブックファーストの講演というか学習会	子どもが進学して学校に在籍しなくなったことと後を継いで活動してくれる方々が増えたため。
高校のサークルでボランティアの会に入っていた 障害者施設の運動会、敬老会でのお世話など	高校卒業、就職

5 ボランティア活動をする上で必要だと思うこと（調査票付問 5-6）

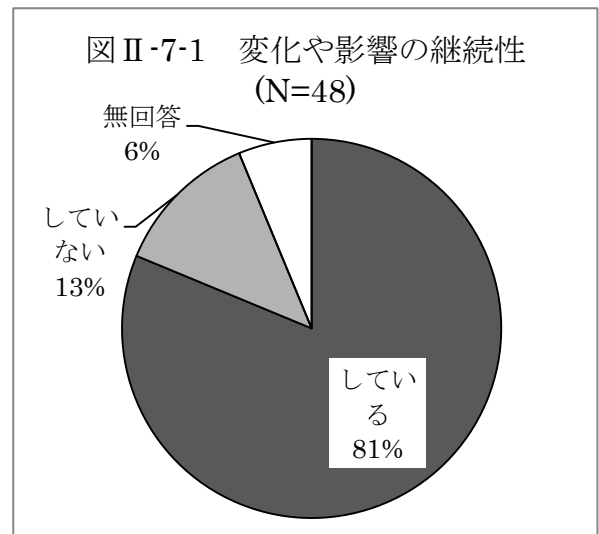
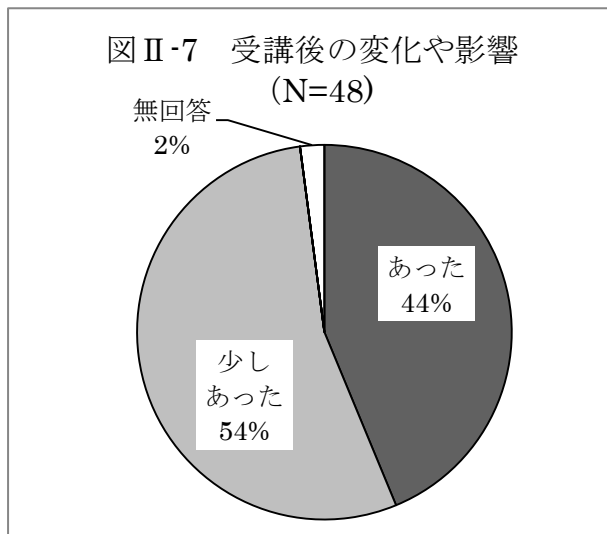
問5で現在ボランティア活動を行っている方に活動をするために必要だと思うことについては、「一緒に活動する仲間」が33%と一番高かった。活動をするためには同じ志を持った仲間がいることが最も必要であると考えているようだ。



6 当センターの講座受講後の変化や影響（調査票問 7）

センター主催講座受講後自身の生活や仕事等において意識や行動に変化や影響があったかについては、98%が「あった」、「少しあった」と何らかの変化や影響があったと答えた。

具体的な変化や影響については、「女性管理職を目指したいと思った」「仕事に関する取り組みが変わった。また、ボランティア活動にも活用したい」「防災に関して興味を持った」などボランティア活動だけではなく、仕事面にもよい変化や影響があったことがうかがえ、講座の成果であると思う。また、受講後の変化や影響が継続しているかについて、81%が「している」と回答した。（図Ⅱ-7-1）仕事やボランティア活動など様々な場面で積極的に活躍したいと考えているようである。



○具体的な変化や影響（調査票付問 7-1）

【行動を起こした】

- ・防災の講座を受けたので、その後、町内会で話をした。
- ・自分の暮らしのスタイルの現状に見合った活動が地域の中には、たくさんあると知ったこと。
サポーター養成講座など受けてボランティア活動を新たに始めたこと。
- ・県のネットワークに組み込んでもらえた。
- ・防災について、情報を少し調べてみた（女性の意見をとり入れるためにどうしているか、など・・・）。

【キャリアアップ、スキルアップ】

- ・自身と家族の生活防衛、そして、問 6 で述べた課題の解決後は地域でも活かせるよう、スキルアップのための学習と備えを続けている。
- ・必要なときは責任者、トップになってもよいと思えるようになった
- ・キャリアアップしたいと思った。又、リーダーとして活動したいと思った。
- ・女性管理職を目指したいと思った。
- ・キャリアアップしたいと思った。（ほか 3 件）

【キャリアアップ、スキルアップ】

- ・スキルアップしたいと思った。外へと向いた見方が出来るようになった。
- ・昇進の話やプロジェクトメンバーに選ばれる等の際、「頼まれ事は、試され事」と話して下さった、貴設の館長さんの話を思い出し、引き受けようと思えた。
- ・リーダーになりたいと思った。
- ・スキルアップが図れた。活動に活かすことができた。

【学習を深める】

- ・他講座の受講
- ・別な講座に参加した。
- ・活動を続けることがスキルや学習のUPにつながると思えたこと
- ・前田文先生のコミュニケーション講座に参加したことをきっかけにもっと深く学びたいと思い、その後1年間コミュニケーション教室に通った。その学びが仕事や生活にとっても活かされている。

【自己の気持ちの変化】

- ・受講内容を広めたいと思った。
- ・防災に興味をもてた。
- ・社会的な立場や仕事内容について考え直すきっかけとなった。
- ・関心知識が深まった。
- ・刺激を受け、前向きな気持ちになる
- ・もっと自分に自信を持って前向きでいたいと思った。
- ・勤務中の人間関係をスムーズにする。自分のストレスとの向かい方につなげた。
- ・意識が高まった。
- ・企業風土で管理職としての自信とやる気を失いかけていたが、ゆるがない信念を持って取り組んでいこうと思った。
- ・自分の意見を伝えやすくなった。
- ・もう遅いと落ち込むことが増えたと思う。
- ・女性の力を生かした活動を行うことの大切さを知った。
- ・自己分析について、自分はどんな人か、考えないようになった（自分はどんな性格か・・・）。自分は何に興味があるか、何をしたいか、何が好きか・・・等々、そのことで自分のことが理解しやすくなった。
- ・前向きにがんばりたいと思った。
- ・仕事に関する取り組み方が変わった。講義を自分の団体でも活用したいと思った。
- ・どうなりたいかということ意識するようになった。
- ・パワーハラスメントと感じた事に対して、相手に直接言えるようになった。
- ・パワーハラスメントに対して同性の女性に相談出来るようになった。
- ・いろんな人の話を聞き、少しは考え方が変化したと思っています（私達の年代のこうあるべ

きとかこうでないとダメとかです)。

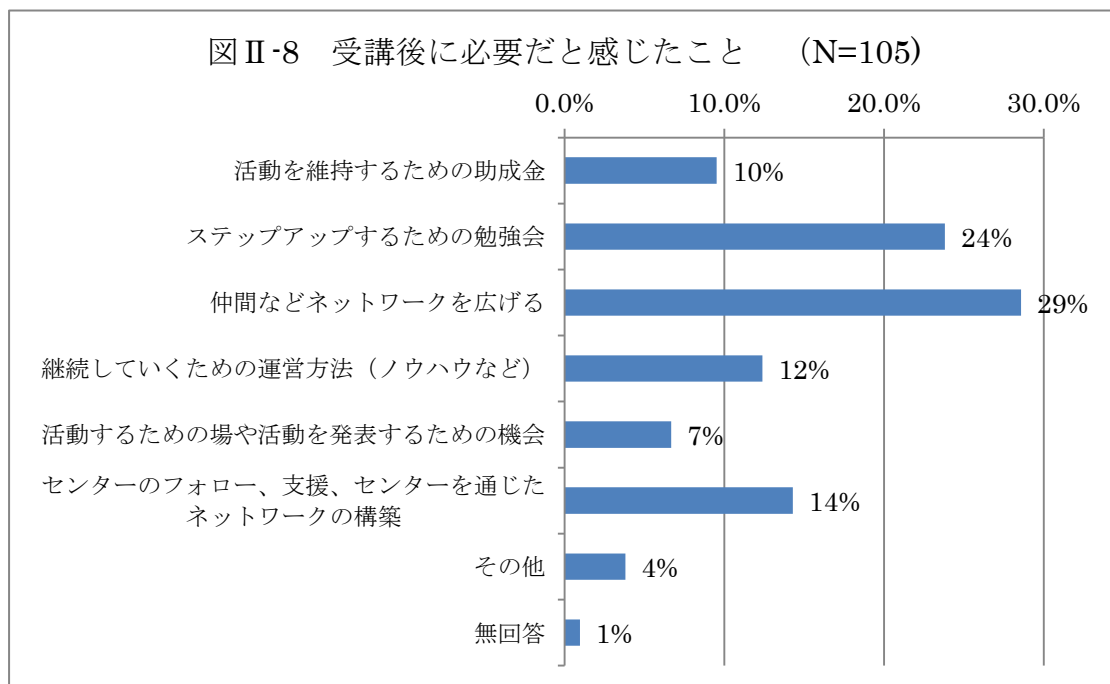
- ・女性が社会に出て働くことは大切だと再認識。自分も仕事を続けていこうと思った。
- ・忙しさを理由にしていました。活動が前進しないことを。あきらめずに実現しようと心を新たにした。
- ・今の子育てを勉強したいと思いました。
- ・講義や他の方と接することで自分の傾向(おとなしい、控え目など)を自覚することができ、自分のある部分を変えていきたいと思った。
- ・仕事に役立つ資格を、自己のスキルアップのためとりたいと思った(また退職後にも生かせるように)。
- ・モラハラについて理解が深まった。
- ・自分の感情と向きあい受け止めること。今後やってみたいことへの背中を押していただいた。

【その他】

- ・どんなに講座を受講してもあくまでも他人事。様々な国の政策や法律があっても万人平等の支援などないのです。
- ・新アララギ福島会の副会長を務めている。

7 受講後に必要だと感じた支援(調査票問8)

センター主催講座受講後に必要だと感じたことについて、「仲間などのネットワークを広げる」が29%と最も高く、次いで「ステップアップのための勉強会」が24%だった。



8 今後取り組んでみたいこと（調査票問6）

【男女共同参画に関すること】

- ・地方公共団体に男女共同参画の今後の条例をつくっていただくための活動（大変アバウトな答えですみません。）
- ・男女共同参画社会を推進するための情報発信や活動している個人や団体とつながり、何かをやりたい。

【教育、人材育成】

- ・キャリアカウンセリング、メンタルヘルスマネジメント検定
- ・NPOの掃除、子どもの教育
- ・人材育成
- ・子供の貧困から見えてくる家庭の問題（教育問題、生活力低下）家計管理、家事力向上等に取り組みたい。
- ・次期リーダーを育てたい。

【ネットワークづくり】

- ・他団体との協働を促すコーディネート
- ・二本松在住の福女の同窓会の人たちとの交流
- ・防災対策をかねた地域の子育て（支援）支え会いのしくみづくり、仲間保育

【ボランティア関連】

- ・認知症になるような年齢になったので、少しでも遅らせるような対策（認知症予防運動等）の運動をしてみたいと考えております。
- ・地域で高齢者、子供たちを見守る居場所づくりをしたい。
- ・海外に関わるボランティアや活動をやってみたいです。
- ・防災活動へのボランティア参加や企画運営研修など

【その他】

- ・聞き書きを広めたい（奥会津書房さんのとりくみのような）
- ・やりっ放しだった活動を検証して、なぜ続けているのかを自覚して70歳代の活動のイメージづくりをして、行動し続ける自分を作りたい。1人の活動でも以前よりずっと社会変革に関係することが多いと（今までの知識や経験をもってしても違和感や戸惑うこともあったりするから。「あなたも年取ったね、高齢者になったのよ。」と周りからは言われるけど・・・。）感じているので、ニュースをよく見聞きし、図書館通いや各種研修受講などで脳活したい。
- ・仕事や研究に関することを深めていきたいと思っています。
- ・グリーンツーリズム（都市と農村をつなぐ）、地元の資源の掘り起こし

【検討中】

- ・したいことは山積しているが、自身と家族の健康と生計を持続可能にしないことには、活動に腰を据えて取り組めない。
- ・活動については、現在、検討中です。
- ・現在の仕事とボランティアで精一杯

9 センターへの要望や意見等（調査票問9）

【センターへのご意見】

- ・いつも興味深いテーマの講座を定期的に案内頂き、楽しみにしています。今後もセンターの活動に期待します。
- ・①高齢者や身障者の災害発生時の避難方法等。②時折参加させていただき受講しておりますが、講師陣がすばらしい方ばかりで大変参考になっております。③1F にあります身障者に関する施設に勤務しております職員の対応すばらしいですね。ありがとうございます。④私はパソコンが出来ませんので 29 年度の計画書が出来ましたならばご恵贈賜りたくお願い申し上げます。
- ・興味深い講座を数多く企画していただきありがとうございます。今後機会があればまた参加させていただきますのでよろしく願いいたします。
- ・具体的で身に付く、様々な計画立案が次々、福島県人として誇り。センターが歩いて行けるところにあつたらな～。年々身体機能の老化を感じ、いつも思っています。それでも参加できるときもあり、県南では幸運な者の一人！企画内容をながめつつ、受講したつもりで関係本読んだり、仲間と話題にできたりは、広報やちらしからもヒントたくさんいただいていると思えるので、今年もこの調子で、貴館を注視します。
- ・今回、「働き女子のごほうびセミナー」の第1回目、3回目に参加しました。センターの講座の受講は初めてで、「グループトーク」もあるのかな等と、敷居は高かったのですが、仕事復帰もせまってきていたので、自己啓発になればと思いついて参加しました。30代後半になり、自分としてやりたいことの他に、妻として、母としての役割、若手、新人社員ではない今、仕事も責任ある地位に徐々になる中で、ストレスや葛藤、なやみも日々増えてきました。受講したことで、また年齢も仕事もさまざまな代の参加者の方と出会えたことで、やはり仕事を続けていきたい、また自分の心を大切に、向き合い、しなやかに生きていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・いつもいろいろな学びの機会を提供して下さりありがとうございます。これからも自分の人間の幅を広げ成長できる講座を期待しています。新しい学びに出会えるのが楽しみです。
- ・上野千鶴子さんがおっしゃったように男女共生センターを失くすような状況は決しておこさないようにしなくてはいけないと思います。災害（震災）のあった県として学習すべき点が多くあります。男女共同参画という重要な視点から考えていってほしいと思います。
- ・男女共生センターを低料金で借用できるのが、大変ありがたいです。性教育は、生教育です。一人一人の生き方を考える教育です。男性にとっても女性にとっても「性=生」を生き生き生

きていける教育です。子供を対象とした性教育も必要ですが、子どもが生きていく上でのモデルとなる大人への教育が必要だと思います。

- ・私が参加しただけでも、講座、未来館フェスティバルのシンボルイベント、女性団体の集会等、男女共同参画に関する催しを数多く実施されていますし、内容的にも興味深いものが多いです。運営にも配慮が行き届いていると感じています。現在のようなことを今後も継続して行っていただけることを期待します。
- ・共生センターに10年位通って、リーダー研修や心理学・男女共同参画等、勉強した事が今の活動に役立っていると思います。しかしながら、ここぞという時のステップアップができていないように思われます。個人の力量の限界、そして資金と悩むことばかりです。無償ボランティアから有償ボランティアになると交通費位にはなるので助かるのだが、現状ではなかなか難しいですね。町や県そして国の考え方もあるのでよけいに大変。実際持ち出して活動しています。未来塾の仲間とは今でも連絡を取り合っています（友達、仲間）。おかげさまで今があると思っています。色々とお世話をおかけ致しました。お世話になりありがとうございました。
- ・いろんなことを催すにあたり、その日までのだんどり大変だろうと思います。（私は行ってお話を聞くだけです）いろいろな年代の人の考え方を聞くことが出来、少しは前向きな行動に進めるかと思っています。

【センター事業の広報に関すること】

- ・その時々々の社会ニーズに合った内容の講座をされていると感じています。しかし、関心の強い人にしか届かない広報手法しか使えていないように思います。空間距離以前に日々の活動が（いわきでは）知られていないように思います。いわき市の手法（タレントを起用、中堅企業とのタイアップ）は、個人的には好きではありませんが、無関心層に若干でも届けるといって点では一定の効果を上げているように感じます。おそらく、当センターのアウトリーチ活動へのニーズを強く有しているのは、①制度化されていない子育て支援活動、②インフラ・産業・放射線をメインとしない震災・原発被災者支援活動に従事中の方々だと感じています。その方々が使われる施設にも「未来館ニュース」は置かれていますが、全然、減っていないように見えます。（本来なら、気づいた自分が橋渡し役を果たさないとならないのですが）
- ・今後ともよろしく願いいたします。いろいろな講座に参加していきたいと思っています。身近な「交流館」の窓口にチラシやパンフレット、広報誌が置いてあると目に止まりやすく情報が伝わりやすくなると思うのですが、市役所に行かないと手に入らず、ごくわずかしき置いてありません。「パソコン見て」の状態ですので、各市町村の担当者へのPRも必要かなと思います。また1年間の講座が分かる「年間講座表」みたいなものがあると便利だし予定が組みやすいです。※いろいろな講座がありましたら、募集案内のチラシを送っていただきたいと思っています。（メールだけではわかりにくいところもあるので・・・）
- ・講座、イベントの案内を職場に送っていただきたい。私個人ではなく、職場宛に直接送っていただけると、研修として参加しやすくなると思います。後輩達にコーチング講座を受講してコミュニケーション能力を身につけてほしいと考えています。特に「アサーティブ」でき

ず悩んでしまっている女子が多いため、よろしくをお願いします。

- ・今後も様々な講座を実施していただきたい。講座案内を私ども団体に連絡をしていただければと思います。組織を通していただけると参画しやすい。
- ・個人が開催している講習会（フラワーアレンジメントやサークル）の連絡先をセンターに掲示してほしい。

【主催事業の要望】

- ・災害と女性の社会進出など幅広く勉強させていただきました。県外に転居してしまい、受講できなくなってしまいましたが、今後も学びを大切にしていきたいと思います。
- ・様々な講座が開催されており、今後も、ひとり暮らしの老人の問題や空き家対策など、その時々々にタイムリーな話題で開催していただければと思います。
- ・長時間労働の職場で仕事以外に時間を使うことが、年々おっくうになってきている。そんな状況を変えるためボランティア活動をしてみたいと思うが、始めるにはハードルが高い感じがしています。ボランティアについての講座や、ボランティアの場を設けてほしいと思います。長時間労働を考える講座もあつたらいいと思います。
- ・男性の家事力向上セミナー。経営陣や管理職へ向けた本当の意味での男女平等機会について知っていただけるよう頑張りすぎしていない夫婦共働き世帯の生の声を聞かせてやって欲しい。女性が仕事に責任を持つこと、体験できるようなワークをして欲しい。
- ・またおもしろそうなセミナーがあつたらぜひ受講したいです。コーチングとかコミュニケーションとかのセミナーがあつたらいいなと思います。
- ・日頃、仕事をしているだけでは出会えない事、人に触れることができ、今度はどんな講座があるのだろう、と楽しみにしております。特に、自分にとって苦手なグループでの話し合いや発表することなど、講座によっては積極的にしなければならぬものもありますが、自分を高めるためのよい機会だと思っております。今後も、様々な分野の方々のお話をお聞きできればと思っております。

【その他】

- ・災害と女性の社会進出など幅広く勉強させていただきました。県外に転居してしまい、受講できなくなってしまいましたが、今後も学びを大切にしていきたいと思います。
- ・男女共生、男女共同参画ならば、貴センター独自の就業形態はありますか？きっと県管轄ですから、就業形態、賃金、休日等、独自のスタイルはないのでしょうか？仮に貴センターが発信元となり、県内の男女共生、男女共同参画をよりよく、より充実したものにしていくのであれば、貴センター独自の新たな試みも必要なのではないでしょうか。原発後、確かに浜通り住民は大変な苦勞をしたとは思っています。しかし、会津、中通りではそのあおりで失業し、職を何社も変えざるを得ず、安定した収入を得られない方もいるのです。今一度、福島県の今後のあり方を検討すべきではないでしょうか。
- ・もっと受講者が増えるための手立てはないでしょうか。県民にもっと馴染んでもらいたい。お世話になりました。

- ・私は 85 歳、夫は 95 歳、半ば介護状態なので講座を受けてもすぐ行動に移せるわけではないが、日々少しでも新しい考えを持って生活したいことと、短歌に詠んで全国に発表するのが目的で共生センターに行くのを楽しみにして居ます。

まとめ

本調査は、平成 22 年度以降に実施した「未来塾」と「未来館エンパワーメント塾」（センター主催人材育成関連講座（以下、センター人材育成講座））の受講生を対象に行った。回答して下さった方は、当センターの講座受講前から仕事以外のボランティア活動等を行っていた方、受講後も積極的に活動を行っている方が多いと推測される。また、スキルアップしたいという意見も多かった。

平成 26 年度に県が実施した「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」によると、リーダー・管理職になりたいと回答した女性は 29%、なりたくないと回答した女性は 69%で「なりたい」と回答した女性の割合を大きく上回っていた。しかし、今回の調査結果から、センター人材育成講座の受講をきっかけとした意識や行動の変化の有無について、「あった（「少しあった」含む）」と回答した方が 98%と、受講されたほとんどの方に意識や行動の変化があった。具体的には「女性管理職を目指したいと思った」や「仕事に関する取り組みが変わった。また、ボランティア活動にも活用したい」と前向きな回答が多く寄せられたことから、地域や組織で活躍できる女性の人材育成を目的としているセンター人材育成講座において、成果が得られたのではないかと思われる。リーダーや管理職になることに消極的な女性たちの意識を少しでも変えることができるのではないかと期待できる。

また、受講後に必要な支援について尋ねたところ、「仲間などネットワーク広げたい」という回答がもっとも多く、交流の場を設け、ネットワークづくりの足がかりとなるような支援がセンターに求められているのではないだろうか。

今回、センター主催講座の受講生への追跡調査は初の試みであったが、多くの方々から様々なご意見をいただくことができた。この結果は次年度以降センター事業に活かしていきたい。

3 調査票

センター主催人材育成講座受講生の追跡調査

I 自身のことについて

問1 お住まいの地域を教えてください。

- | | | | | | |
|--------|------------|-------|-------|--------|-------|
| 1. 県北 | 2. 県中 | 3. 県南 | 4. 会津 | 5. 南会津 | 6. 相双 |
| 7. いわき | 8. その他 () | | | | |

問2 性別（性自認：自分自身が認識している性）を教えてください。

- | | | | |
|-------|-------|------------|--|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 () | |
|-------|-------|------------|--|

問3 年代を教えてください。

- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代～ |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|

問4 職業・所属団体等を教えてください。

- | | | | |
|-------------|-----------|--------|----------|
| 1. 会社員・団体職員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 | 4. 主婦・主夫 |
| 5. 農業 | 6. 各種団体会員 | 7. 学生 | 8. 無職 |
| 9. その他 () | | | |

問5 現在、仕事以外のボランティア活動等を行っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない |
|----------|-----------|

付問5-1 **問5で「1. 行っている」**と回答した方で、どのような活動をしているか具体的に教えてください。

《例：地区の自治活動をしている。子育て支援の団体に所属して活動している。等》

付問5-2 **問5で「1. 行っている」**と回答した方で、現在行っている活動は、あなたが受講したセンター主催講座と関連がありますか。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 講座を受講する前から活動している。 | 2. 講座受講をきっかけに活動を始めた。 |
| 3. 講座の受講とは関連がない。 | |

付問5-3 **問5で「1. 行っている」**と回答した方で、共に活動する仲間又は連携する他団体はありますか。また「1. ある」と回答した方は、具体的にお書きください。

- | |
|--------------|
| 1. ある（具体的：) |
|--------------|

2. ない

付問5-4 **問5「2. 行っていない」**と回答した方で、過去に活動（仕事以外のボランティア活動等）を行ったことがありますか。

1. ある 2. ない

付問5-5 **付問5-4「1. ある」**と回答した方で、具体的にどんな活動を行っていましたか。また、お辞めになった理由は何ですか。

(活動)

(辞めた理由)

付問5-6 **問5「1. 行っている」**又は**付問5-3「1. ある」**と回答した方で、活動をするために必要だと思うことはどんなことですか。（複数回答可）

1. 活動資金 2. 運営のノウハウ 3. 一緒に活動する仲間
4. 活動するための場所 5. その他（ ）

問6 ご自身で、今後、取り組んでみたい事はありますか。

II 当センターの受講後の状況について

問7 当センターの講座を受講され、受講後の生活や仕事等に関して意識や行動に変化や影響はありましたか。

1 あった 2 少しあった 3 なかった 4 その他（ ）

付問7-1 **問7で「1あった」「2少しあった」**と回答の方のみお答えください。
それはどのような変化でしたか。

公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター「女と男の未来館」
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
電話 0243-23-8303 FAX0243-23-8314
URL <http://www.f-miraikan.or.jp>